

海底熱水鉱床の開発に関する研究

浦辺徹郎 理学系研究科

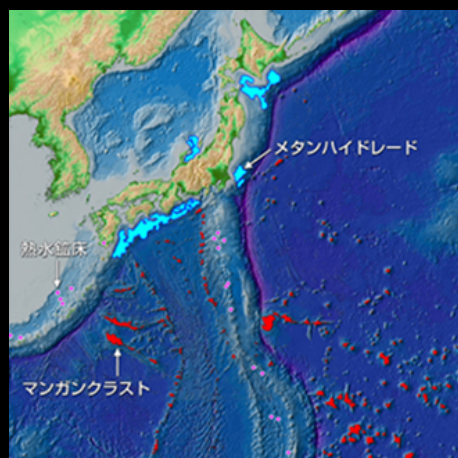
世界的な金属価格の高騰を受けて、産出国には資源ナショナリズムが台頭し始め、金属資源の安定供給を巡る動きが不透明になっている。これらの影響を受けるわが国では、将来に亘る金属資源の安定確保についての戦略が求められている。しかし幸いにもわが国の周辺には、広大な排他的経済水域が存在し、そのなかに有望な海底鉱物資源が存在することが知られている。こうした背景の中で、海洋基本計画に「今後 10 年以内に海底熱水鉱床の商業開発をめざす」との文言が明記された。

海底熱水鉱床の開発は、将来の金属資源の安定供給に資するのみならず、過度の資源獲得競争や資源ナショナリズムの再燃防止の可能性も併せ持つ。しかしその一方で、地球生命誕生の場といわれる稀少な熱水孔周辺の生態系を破壊する危険性も孕んでいる。また "Rare Biosphere" と呼ばれる熱水噴出口周辺の豊かな遺伝子資源を損なうことも懸念される。このように、海底熱

水鉱床の開発はさまざまな要素を含む、複雑な問題である。この問題に関しては、深海底における資源開発をどのように法の枠組みの中に位置づけるのか、国際社会からの受容をどのように得ていくのか、また異なる目的を追求するさまざまな国際機関や競争する企業間の利害調整をどのように進めていくのか、政策的・法的あるいは技術的・科学的な観点からの検討が求められている。

そこで海洋アライアンスは、この問題を知識ベースに則り、領域横断的かつ中立的な立場から検討を行うために研究会を結成した。この研究会には、東京大学の利点を生かし、生物学／生態学、環境学、経済学、法学、地球科学、海洋工学等の幅広い専門家が参加している。

これまでに、海洋政策・国内外の法規、海洋環境保全のあり方、探査・開発に係る海洋工学および海洋科学の観点から検討を進めている。今後さらに国際的な視点をもち、研究を継続する予定である。



わが国周辺海域の海底資源分布